

科目名	成人看護学概論		時期		時間	単位
担当教員	専任教員		1年次	後期	30時間	2単位
科目設定理由	現代の経済的・環境的变化は目まぐるしく、成人期にある対象の健康問題も複雑化・多様化している。この急速に変化する社会において、「成人」である大人を包括的に理解するためには、対象の生活や健康に関する最新の動向を多角的に捉える視点をもつ必要がある。そこで、成人期にある対象の特徴と生活、健康に関する基本的知識、多様な健康レベルや健康問題に対応するためのアプローチの基本的な考え方を学ぶため当該科目を設定した。					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 成人の特徴と生活、健康問題を理解する 2 成人への看護アプローチの基本を理解する 3 成人の健康レベルに応じた看護を理解する 4 成人の健康生活を促すための看護技術を理解する 					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1~2	成人の特徴と生活	<ol style="list-style-type: none"> 1 対象の理解 (1) 青年期、壮年期・中年期、向老期の発達課題 2 対象の生活 				講義
3~5	生活と健康	<ol style="list-style-type: none"> 1 成人をとりまく環境と生活の状況 2 成人の健康の状況 (1) 生活行動と習慣 (2) 社会環境 (3) 受療状況 3 生活と健康をまもりはぐくむシステム 				講義・演習
6~7	成人への看護アプローチの基本	<ol style="list-style-type: none"> 1 生活のなかで健康行動を生みはぐくむ援助 2 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係 3 人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ 4 チームアプローチ 5 看護におけるマネジメント 6 看護実践における倫理的判断 7 意思決定支援と家族支援 				講義
8~10	健康レベルに対応した看護	<ol style="list-style-type: none"> 1 ヘルスプロモーションと看護 2 健康を脅かす要因と看護 3 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 4 慢性病との共存を支える看護 5 障害がある人の生活とリハビリテーション 6 人生の最期のときを支える看護 				講義
11~14	成人の健康生活を促すための看護	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習者である患者への看護の原理 2 治療過程にある患者への看護 3 症状マネジメントにおける看護 4 療養の場を移行する人々への看護 5 新たな治療法、先端医療と看護 				講義
15	試験 (90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [1] 成人看護学総論		小松 浩子 他		医学書院	
	国民衛生の動向				厚生統計協会	
	生活習慣病のしおり				社会保険出版社	
	事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門		佐藤 英子 他		日総研出版	
参考図書・資料等	看護のための人間発達学 第5版		舟島なをみ 他		医学書院	
	生涯人間発達論 人間への深い理解と愛情を育むために		服部 祥子		医学書院	
評価方法	筆記試験、演習への取り組み・課題レポート・出席状況などから総合的に評価する					

科目名	成人看護援助論 I		時期		時間	単位
担当教員	専任教員、看護師		2年次	前期	30時間	1単位
科目設定理由	近年、成人期にある対象の健康問題は複雑化・多様化し、突然の事故や発病、持病の急激な悪化、手術などにより、激的な症状や激しい苦痛・不安を呈し、生命の危険を伴うことも多い。そこで、専門基礎分野で学んだ知識と関連させながら、急性期や周術期にある対象の特徴や消化・吸収・循環機能に障害のある対象の特徴を理解し、それぞれに応じた看護実践力を養う必要があるため当該科目を設定した。					
学習目標	1 急性期にある対象と、その家族の特徴および看護を理解する 2 周手術期にある対象の特徴と周手術期看護の援助方法を理解する 3 消化・吸収機能障害のある患者の看護を理解する 4 循環機能障害のある患者の看護を理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1~3	周手術期にある患者の特徴と看護 (術前・術中・術後)	1 術前からの看護 (1) 術前オリエンテーション (2) 術後合併症のリスクと予防 2 術中の看護 (1) 麻酔による影響と援助 (2) 手術体位による影響と援助 (3) 安全管理 3 術後の看護 (1) 手術侵襲と生体反応 (2) 術後の疼痛管理 (3) 気管内吸引 (4) 創傷、ドレーン管理 ア 創処置の実際 イ 無菌操作 (5) 術後合併症と予防 (6) ボディーイメージの変容				講義・演習 (専任教員)
4~8	消化・吸収機能障害のある患者の看護①	1 上部消化管腫瘍(食道がん・胃がん) 2 下部消化管腫瘍(直腸がん) 3 炎症性疾患(大腸炎・クローン病) 4 手術療法をうける患者の看護 (1) 腹腔鏡手術を受ける患者の看護 (2) 胃の手術を受ける患者の看護 (3) 腸の手術を受ける患者の看護				講義・演習 (看護師)
9~10	消化・吸収機能障害のある患者の看護②	5 ストーマケア				講義・演習 (看護師)
11~14	循環機能障害のある患者の看護	1 虚血性心疾患患者の看護 2 心不全患者の看護 3 不整脈患者の看護 4 弁膜症患者の看護 5 閉塞性動脈硬化症患者の看護 6 冠状動脈インターベンション・ペースメーカー治療を受ける患者の看護 7 心臓リハビリテーションと看護				講義・演習 (看護師)
15	試験(90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3]循環器		吉田 俊子 他		医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器		松田 明子 他		医学書院	
	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論		矢永 勝彦 他		医学書院	
	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論		北島 政樹 他		医学書院	
	根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術		任 和子 他		医学書院	
参考図書・資料等	高齢者と成人の周手術期看護 1、2、3 第2版		竹内 登美子		医歯薬出版	
評価方法	筆記試験・グループワーク・レポート・出席状況などを総合的に評価する					

科目名	成人看護援助論Ⅱ		時期		時間	単位
担当教員	看護師		2年次	前期	30時間	1単位
科目設定理由	近年、医療技術の進歩に伴い、病気を持ちながらも生活を営むことが可能となってきた。また、近年の高齢化や生活習慣の変化により慢性的な経過をたどる人や、前立腺がんや膀胱がん、肺がんや慢性閉塞性肺疾患に罹患する患者も増加傾向にある。そこで、専門基礎分野で学んだ知識と関連させながら、各機能に障害のある対象の特徴を理解し、それぞれに応じた看護実践力を養う必要があるため当該科目を設定した。					
学習目標	1 慢性期にある対象とその家族の特徴および看護を理解する 2 慢性期にある対象がセルフマネジメントを継続するための看護を理解する 3 内分泌機能、腎・排尿機能、呼吸機能の障害のある患者への看護を理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1~5	内分泌機能障害のある患者の看護	1 内分泌機能障害の原因 2 内分泌機能による症状と観察 3 治療を受ける患者の看護 (1) 糖尿病患者の看護 (1・2型糖尿病) (2) 甲状腺疾患患者の看護 (甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、甲状腺がん) (3) 副腎疾患患者の看護 (4) 下垂体疾患患者の看護 (下垂体腫瘍)				講義
6~9	腎・排尿機能障害のある患者の看護	1 腎・排尿機能障害の原因 2 腎・排尿機能障害による症状と観察 3 治療を受ける患者の看護 (1) 急性・慢性腎不全患者の看護 (2) 腎炎・慢性腎臓病患者の看護 (3) 前立腺肥大のある患者の看護 (4) 腫瘍 (腎がん、膀胱がん、前立腺がん) のある患者の看護 (5) 腎・尿路結石のある患者の看護 4 腎移植を受ける患者の看護 5 透析療法を受ける患者の看護 (1) 血液透析 (2) 腹膜透析				講義
10~14	呼吸機能障害のある患者の看護	1 呼吸機能障害の原因 2 呼吸機能障害による症状と観察 3 治療を受ける患者の看護 (1) 腫瘍 (肺がん、中皮腫) (2) 炎症性疾患 (肺炎、気管支炎、胸膜炎) (3) 慢性閉塞性肺疾患 (COPD)				講義
15	試験 (90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [6]内分泌・代謝			黒江 ゆり子 他		医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8]腎・泌尿器			大東 貴志 他		医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2]呼吸器			浅野 浩一郎 他		医学書院
	根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術			任 和子 他		医学書院
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、グループワーク・レポート・出席状況などを総合的に評価する					

科目名	成人看護援助論Ⅲ		時期		時間	単位
担当教員	看護師		2年次	前期	30時間	1単位
科目設定理由	近年、医療技術の進歩に伴い確立された検査や治療が行われる一方、それぞれの患者には個別性があり、難病指定の疾患や悪性腫瘍など長期にわたり苦痛を伴う治療を余儀なくされることもある。また、人は自分の生を生き、そしていつかは必ず死を迎えるため、看護師には対象に応じた看護が求められる。そこで、専門基礎分野で学んだ知識と関連させながら、各機能に障害のある対象の特徴を理解し、それぞれに応じた看護実践力を養う必要があるため当該科目を設定した。					
学習目標	1 終末期にある対象とその家族の特徴および看護を理解する 2 血液悪性疾患、肝臓・胆嚢疾患、膵臓疾患、HIV/AIDS、感覚機能障害のある患者の看護を理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1~4	血液悪性疾患患者の看護	1 白血病患者の看護 2 悪性リンパ腫患者の看護 3 がん薬物療法と看護 4 放射線療法と看護 5 造血幹細胞移植を受ける患者の看護 6 輸血療法を受ける患者の看護				講義
5~8	肝臓・胆嚢疾患患者の看護	1 肝炎患者の看護 2 肝硬変症患者の看護 3 肝がん患者の看護 4 胆石症患者の看護				講義
9	膵臓疾患患者の看護	1 急性膵炎患者の看護 2 慢性膵炎患者の看護 3 膵臓がん患者の看護				講義
10	HIV/AIDS患者の看護	1 HIV/AIDS患者の病期に応じた看護 (1) 急性感染期 (2) 無症候期 (3) エイズ発症期				講義
11	感覚機能障害のある患者の看護(眼)	1 中途視覚障害者の看護 2 白内障患者の看護				講義
12	感覚機能障害のある患者の看護(耳鼻)	1 突発性難聴、メニエール病患者の看護 2 副鼻腔炎患者の看護				講義
13~14	人生の最期のときを支える看護	1 延命治療から患者の自己決定を重視した医療へ 2 人生の最期のときにおける緩和ケア 3 人生の最期のときを過ごしている人への理解 4 人生の最期のときを支える看護				講義
15	試験(90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4]血液・造血器		飯野 京子 他		医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器		松田 明子 他		医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11]アレルギー 膠原病 感染症		岩田 健太郎 他		医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[13]眼		大鹿 哲郎 他		医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [14]耳鼻咽喉		小松 浩子 他		医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [1]成人看護学総論		小松 浩子 他		医学書院	
	根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術		任 和子 他		医学書院	
参考図書・資料等	新体系 看護学全書 成人看護学⑨ 感染症 アレルギー・免疫 膠原病		竹田 美文 他		ぎゅぐゅ社	
評価方法	筆記試験、グループワーク、レポート、出席状況などを総合的に評価する					

科目名	成人看護援助論Ⅳ		時期		時間	単位
担当教員	専任教員、看護師		2年次	前期・後期	30時間	1単位
科目設定理由	近年、高度先進医療技術の発展やがん遺伝子の検出、分子標的薬の開発等により、患者一人ひとりの経過予測や治療の効果予測が可能になり、これらに基づいた最適な個別化医療が進んでいる。また、がん診断早期から緩和ケアを提供することで生存期間の延長がもたらされることが報告されるなど緩和ケアの重要性が広く認識されてきている。そこで、がん患者の特徴や緩和ケアを必要とする患者と家族に応じた看護を学ぶため当該科目を設定した。					
学習目標	1 がん患者と家族への看護を理解する 2 終末期および緩和ケアを必要とする対象とその家族の特徴および看護を理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1～4	がん患者の看護①	1 がん患者の苦痛に対するマネジメント 2 がん患者の心理的サポート 3 がん治療に対する看護 4 がん治療の場と看護 5 治療をうける患者の看護 (1) 脳腫瘍 (2) 舌がん (3) 咽頭がん (4) 喉頭がん				講義 (看護師)
5～6	がん患者の看護②	1 乳がんの治療を受ける患者の看護 (1) 乳房の手術を受ける患者の看護 (2) 化学療法を受ける患者の看護 (3) 放射線療法を受ける患者の看護 (4) ホルモン療法を受ける患者の看護				講義 (看護師)
7～10	緩和ケアを必要とする患者と家族への看護	1 緩和ケアにおける看護介入 2 身体的ケア (1) オピオイドを使用する患者の看護 他 3 精神的ケア 4 社会的ケア 5 スピリチュアルケア 6 家族ケア				講義 (看護師)
11～14	事例展開	1 看護過程の考え方 2 事例展開の実際 (1) アセスメント (2) 看護上の問題点の明確化 (3) プランニング				講義・演習 (専任教員)
15	試験 (90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1]成人看護学総論	小松 浩子 他	医学書院			
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7]脳・神経	飯野 京子 他	医学書院			
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9]女性生殖器	末岡 浩 他	医学書院			
	系統看護学講座 別巻 がん看護学	小松 浩子 他	医学書院			
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[14]耳鼻咽喉	小松 浩子 他	医学書院			
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[15]歯・口腔	渋谷 絹子 他	医学書院			
	系統看護学講座 別巻 緩和ケア	恒藤 暁 他	医学書院			
	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論	北島 政樹	医学書院			
	根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術	任 和子 他	医学書院			
	乳がん患者ケアパーフェクトブック	阿部 恭子 他	学研			
	病期・発達段階の視点でみる 疾患別看護過程	任 和子 他	照林社			
参考図書・資料等	がん患者に対するアピアランスケアの手引き	国立がん研究センター	金原出版			
	ゲノム医療時代のがん分子標的薬と診断薬研究 実験医学増刊 Vol.38 No.15	西尾 和人	羊土社			
	特集がんゲノム医療用語事典 臨床検査 2020年10月号増刊号		医学書院			
評価方法	筆記試験、グループワーク、レポート、出席状況などを総合的に評価する					

科目名	老年看護学概論		時期		時間	単位
担当教員	専任教員		2年次	前期	30時間	2単位
科目設定理由	<p>少子高齢化や平均寿命の延長により、国民の3.7人に1人が高齢者である時代となり、高齢者の生活は多様化し看護の場も拡大した。そのため、高齢者一人ひとりの人生を念頭におきながら、対象に合わせたかかわりや多職種との連携・協働できる看護師が求められている。そこで、老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴と健康課題を学び、老年看護の役割と機能を理解する能力を養うため当該科目を設定した。</p>					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 老年期における看護の機能と役割を理解する 2 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解する 3 高齢社会における保健・医療・福祉の動向を理解する 4 高齢者における権利擁護とエンドオブライフケアの重要性を理解する 					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1～2	老年看護の特徴	<ol style="list-style-type: none"> 1 「老い」ということ 2 老年期の発達課題 3 老年看護のなりたち 4 老年看護の役割と老年看護に携わる者の責務 				講義
3～9	高齢者の身体的・精神的・社会的特徴	<ol style="list-style-type: none"> 1 加齢に伴う身体的側面の変化 <ol style="list-style-type: none"> (1) 皮膚とその付属器、視聴覚とその他の感覚 (2) 循環系、呼吸器系、消化器系 (3) ホルモンの分泌 (4) 泌尿・生殖器、運動系 2 加齢に伴う心理的側面の変化 3 加齢に伴う社会的側面の変化 <ol style="list-style-type: none"> (1) 高齢者と家族、高齢者の暮らし 				講義・演習
10～12	高齢社会における保健・医療・福祉の動向	<ol style="list-style-type: none"> 1 超高齢社会と社会保障 <ol style="list-style-type: none"> (1) 超高齢社会の統計的輪郭 (2) 高齢者の健康状態、死因、死亡の動向 2 高齢社会における保健医療福祉の動向 <ol style="list-style-type: none"> (1) 高齢者にかかわる保健医療福祉システムの構築 (2) 高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化 				講義
13	高齢者の人権と倫理	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者の権利擁護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 高齢者差別、虐待 (2) 高齢者の身体拘束 (3) 権利擁護のための制度 				講義
14	エンドオブライフケア	<ol style="list-style-type: none"> 1 エンドオブライフケアの概念 2 「生きる」ことを支えるケア 3 意思決定への支援 				講義
15	試験 (90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学			北川 公子 他	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論			鳥羽 研二 他	医学書院	
	国民衛生の動向			厚生統計協会		
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、グループワーク・レポート・出席状況などを総合的に評価する					

科目名	老年看護援助論Ⅰ		時期		時間	単位
担当教員	専任教員、看護師		2年次	前期	30時間	1単位
科目設定理由	<p>老年期にある対象の健康は、身体各機能と器官の加齢変化により、いったん健康を損ねると、重症化しやすくなるという特徴がある。そのため、老年期に起こりがちな疾患や障害を理解し、それぞれの対象に合わせた看護実践能力を養うため当該科目を設定した。</p>					
学習目標	<p>1 脳血管障害、認知機能障害、運動器障害をもつ高齢者への看護を理解する 2 褥瘡を予防するための援助方法を理解する</p>					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1~4	脳神経機能障害をもつ高齢者の看護	<p>1 脳血管障害の病態、症状、検査、診断、治療 (1) 脳血管障害 (大脳、小脳) (2) 頭部外傷 (3) パーキンソン症候群 (4) その他高齢者に多い脳血管障害 2 生じやすい看護問題と看護 (1) 急性期、回復期、維持期の看護 (2) 生じやすい看護問題と看護 ア 歩行や転倒予防に対する援助 イ 日常生活に関する援助 ウ 薬物療法時の援助 エ 家族への支援</p>				講義・演習 (看護師)
5~7	認知機能障害をもつ高齢者の看護	<p>1 認知機能障害の病態、症状、検査、診断、治療 (1) うつ (2) せん妄 (3) 認知症 2 認知機能および生活機能の評価 3 認知症の予防と看護</p>				講義・演習 (専任教員)
8~11	運動機能障害をもつ高齢者の看護	<p>1 運動機能障害の病態、症状、検査、診断、治療 (1) 大腿骨頸部骨折 (2) 骨粗鬆症 (3) 関節リウマチ (4) 椎間板ヘルニア (5) その他高齢者に多い運動機能障害 2 大腿骨頸部骨折患者の看護 (1) 処置・治療に伴う経過と看護 (2) 生じやすい看護問題と看護 (3) 関節可動域訓練 (4) 牽引療法、ギプス固定</p>				講義・演習 (看護師)
12~14	褥瘡予防の援助	<p>1 褥瘡の病態、症状、検査、診断、治療 2 褥瘡をもつ患者の看護 (1) 発生要因のアセスメント (2) 褥瘡リスクの評価ツール (3) 外力に対する看護 (4) 組織耐久性の低下へのケア (5) 褥瘡の評価 3 褥瘡予防の援助技術</p>				講義・演習 (看護師)
15	試験 (90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学			北川 公子 他	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論			鳥羽 研二 他	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7]脳・神経			井手 隆文 他	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10]運動器			田中 栄 他	医学書院	
	根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術			任 和子 他	医学書院	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験・グループワーク・レポート・出席状況などを総合的に評価する					

科目名	老年看護援助論Ⅱ		時期		時間	単位
担当教員	専任教員		2年次	後期	30時間	1単位
科目設定理由	老年期にある対象の加齢に伴う変化、症状などを理解した上で、対象の残存機能や強みを活かした援助技術および対象の健康上の問題を生活の視点から解決する基礎的能力を養うため当該科目を設定した。					
学習目標	1 老年看護に関する理論・概念を理解する 2 治療を必要とする高齢者の看護を理解する 3 高齢者の生活機能を整えるために必要な援助技術を習得する 4 老年期にある対象の問題を解決するための方法を考え記述できる					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1	老年看護で用いられる理論・概念	1 老年看護における理論の活用 2 老年看護に役立つ理論・概念 (1) サクセスフルエイジング (2) ストレングスモデル				講義
2~3	治療を必要とする高齢者の看護	1 検査、薬物療法を受ける高齢者の看護 2 手術を受ける高齢者の看護 3 リハビリテーションを受ける高齢者の看護 4 入院治療を受ける高齢者の看護				講義・演習
4~9	高齢者の生活機能を整える看護	1 日常生活を支える基本的活動 (1) 生活の基本となる日常生活動作 (2) 日常生活活動(動作)の評価 2 転倒・転落、廃用症候群の予防と援助 3 食事・食生活の援助 (1) 誤嚥予防の援助 (2) 脱水予防の看護 4 排泄(排尿・排便)の援助 (1) 排泄ケアの基本 (2) 排泄障害 5 清潔・整容の援助 (1) 皮膚障害 (2) かゆみ予防の援助 6 生活リズムを整える援助 (1) 睡眠と覚醒の変化 (2) 生活リズム 7 高齢者におけるセクシュアリティ 8 高齢者の社会参加を促す援助 9 高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーション (1) 難聴 (2) 視力障害				講義・演習
10~14	事例展開	1 看護過程の考え方 2 事例展開の実際 (1) アセスメント (2) 看護上の問題点の明確化 (3) プランニング (4) 老年看護学実習で起こりやすいヒヤリ・ハットとその要因				講義・演習
15	試験(90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学			北川 公子 他	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論			鳥羽 研二 他	医学書院	
	根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術			任 和子 他	医学書院	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験・グループワーク・レポート・出席状況などを総合的に評価する					

科目名	小児看護学概論		時期		時間	単位
担当教員	専任教員		2年次	前期	30時間	2単位
科目設定理由	本格的な少子高齢社会を迎え、子どもを取り巻く環境の急速な変化の中にあっても、子どもの健やかな成長・発達を願った支援や家族が安心して育児ができる環境づくり等に小児看護学の果たす役割は大きい。そこで、小児看護の対象である子どもの成長発達段階を深く理解するとともに、様々な健康状態および多様な場における子どもと家族への役割等を学ぶ。また、現代の子どもと家族の概況について諸統計から理解し、子どもと家族を取り巻く変遷と法律・施策との関連を学び、健康の保持・増進分野における看護の役割を理解することを目的に当該科目を設定した。					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 小児看護の対象となる子どもの特徴を理解する 2 小児と家族の概況を諸統計から理解する 3 各期の子どもの特徴に応じた看護を理解する 4 子どもと家族を取り巻く社会の変遷と児童福祉・母子保健施策などの関連を学び看護職の役割を理解する 5 病気・障害、入院などが小児・家族に与える影響を理解する 					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1~2	小児看護の特徴と理念	<ol style="list-style-type: none"> 1 小児看護の対象および目標・役割 2 小児と家族の諸統計 3 小児看護の変遷 4 小児看護における倫理および小児看護の課題 				講義
3~4	子どもの成長・発達	<ol style="list-style-type: none"> 1 成長・発達とは 2 成長発達の進み方・成長発達に影響する因子 3 成長の評価・発達の評価 				講義
5	子どもの栄養	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもにとっての栄養の意味 2 子どもの食育・食事摂取基準 3 発達段階別の子どもの栄養の特徴と看護 				講義
6~8	各期の子どもの特徴	<ol style="list-style-type: none"> 1 新生児・乳児、幼児・学童、思春期・青年期の子どもの成長・発達、健康、家族、看護 				講義
9	家族の特徴とアセスメント	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもにとっての家族とは、家族アセスメント 				講義
10~11	子どもと家族を取り巻く社会	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童福祉、母子保健、医療費の支援、予防接種、学校保健、特別支援教育、臓器移植法 				講義
12~14	臨床における看護	<ol style="list-style-type: none"> 1 病気・障害をもつ子どもと家族の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 病気・障害の影響 (2) 子どもの健康問題と家族 2 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 入院中・外来 (2) 在宅療養 (3) 災害時 3 子どもにおける疾病の経過と看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 慢性期・急性期・周手術期・終末期の子どもと家族の看護 4 障害のある子どもと家族の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 障害のとらえ方 (2) 家族の特徴と社会支援 				講義
15	試験 (90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学 [1]小児看護学概論・小児臨床看護総論			奈良間 美保 他	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学 [2]小児臨床看護各論			奈良間 美保 他	医学書院	
	国民衛生の動向			厚生統計協会		
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、グループワーク・レポート・出席状況などを総合的に評価する					

科目名	小児看護援助論 I		時期		時間	単位
担当教員	看護師		2年次	後期	30時間	1単位
科目設定理由	小児疾患の病態・症状・診断・治療の理解などを基礎に、病態別看護・治療処置別看護・経過別看護の学び、看護実践能力を養うことを目的に当該科目を設定した。					
学習目標	健康障害や疾患をもつ子どもと家族への援助方法を理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1~2	ネフローゼ症候群の 子どもの看護	1 病態の理解と看護 2 経過別看護 (1) 急性期、回復期、症状消失後、退院に向けて (2) 家族への援助・学校との連携				講義
3~4	川崎病の子どもの看護	1 病態の理解と看護 2 経過別看護 (1) 急性期、回復期 (2) 家族への援助				講義
5	食物アレルギーの 子どもの看護	1 食物アレルギーの子どもの看護 (1) アレルギー症状に対する看護 (2) 予防と日常生活における注意				講義
6~7	気管支喘息の子どもの 看護	1 気管支喘息の子どもの看護 (1) 病態の理解 (2) 喘息発作への対応 ア 理学療法 (腹式呼吸・排痰) イ 薬物療法 ウ 吸入療法 エ 酸素療法 オ 輸液療法 (3) 予防 ア 環境調整 イ 運動療法				講義
8~11	感染症の子どもの看護	1 感染症の子どもの看護 (麻疹、無菌性髄膜炎、百日咳、ロタウイルス感染症、ノロウイルス感染症、乳児難治性下痢症) (1) 病態の理解 (2) 治療・処置別看護 (3) 日常生活指導と家族への援助				講義
12~14	低出生体重児の看護	1 病態の理解 2 胎外生活への適応を支える看護 (1) 体温調節、呼吸の調整、循環の調整、水分・電解質の調整 (2) 低血糖予防、感染予防 3 成長・発達を支える看護 (1) ふれあい・安楽な姿勢の保持 (2) 授乳 (3) 環境調整、支援体制の整備、家族への援助				講義
15	試験 (90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学 [1]小児看護学概論・小児臨床看護総論			奈良間 美保 他	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学 [2]小児臨床看護各論			奈良間 美保 他	医学書院	
参考図書・資料等	写真でわかる小児看護技術アドバンス			山元 恵子 他	インター メディカ	
評価方法	筆記試験・グループワーク・レポート・出席状況などを総合的に評価する					

科目名	小児看護援助論Ⅱ		時期		時間	単位
担当教員	専任教員		2年次	後期	30時間	1単位
科目設定理由	子どものアセスメントに必要な知識や技術、症状別や検査・処置別看護について、講義や演習を通して具体的に学び、看護実践能力を養う。また、小児看護における看護過程のプロセスについて演習を通して理解することにより、小児看護の実践能力の向上を図ることを目的に当該科目を設定した。					
学習目標	1 子どものアセスメントに必要な知識と技術を理解する 2 子どもの症状に応じた看護、検査・処置を受ける子どもの看護を理解する 3 小児看護における看護過程のプロセスを理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内容				備考
1~2	子どものアセスメント	1 アセスメントに必要な技術 (1) コミュニケーション (2) バイタルサイン、身体測定 2 身体的アセスメント				講義・演習
3	症状を示す子どもの看護	1 小児の主な症状と看護 不きげん、啼泣、痛み、チアノーゼ、ショック、けいれん、発熱、嘔吐、下痢、便秘、脱水				講義
4~6	検査・処置を受ける子どもの看護	1 検査・処置総論 2 薬物動態と薬容量の決定 3 検査・処置と看護 (1) 与薬、輸液管理、輸液管理 (2) 抑制、検体採取 (3) 排泄 4 呼吸困難の緩和 (1) 吸引 (2) 酸素療法 (3) 吸入療法 5 救命処置 (1) 意識・呼吸状態の観察 (2) 心肺蘇生法、気道確保・人工呼吸法、気道内異物除去				講義・演習
7~8	白血病の子どもの看護	1 病態の理解 2 経過別看護 (1) 確定診断から治療開始 (2) 初期寛解から治療終了 (3) 入院治療終了、外来通院開始 (4) 再燃・再発 (5) 家族への援助				講義
9~14	事例展開	1 演習事例 白血病をもつ子どもの看護（演習：「入院中の遊び」含む）				講義・演習
15	試験（90分）	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学 [1]小児看護学概論・小児臨床看護総論			奈良間 美保 他	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学 [2]小児臨床看護各論			奈良間 美保 他	医学書院	
	写真でわかる小児看護技術アドバンス			山元 恵子 他	インター メディカ	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験・グループワーク・レポート・出席状況などを総合的に評価する					

科目名	母性看護学概論		時期		時間	単位
担当教員	専任教員		2年次	前期	30時間	2単位
科目設定理由	妊産褥婦および新生児への看護活動や女性の一生を通じた健康の維持・増進、疾病予防を目的とした看護活動を支える母性看護学において、その基盤となる概念や時代の変遷および母子保健統計等から母性看護の対象の現状を学ぶ。また、対象を取り巻く環境と母性看護に関する組織・法律・施策との関連から母性看護における看護の役割を理解するとともに、女性のライフステージにおける看護とリプロダクティブヘルスに関する問題と看護を理解することを目的に当該科目を設定した。					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 母性看護の基盤となる概念を理解する 母性看護の歴史的変遷や母子保健統計から母性看護の対象を理解する 母性看護の対象を取り巻く歴史的変遷やライフスタイルの変化等と組織・法律・施策との関連を学び、看護職の役割を理解する 母性看護実践のための主要な技術を理解する 女性のライフステージにおける看護とリプロダクティブヘルスに関する問題と看護を理解する 					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1~2	母性看護の基盤となる概念	<ol style="list-style-type: none"> 母性とは 母子関係と家族発達 セクシャリティ リプロダクティブヘルス/ライツ ヘルスプロモーション 母性看護のあり方 母性看護における倫理 母性看護における安全・事故防止 				講義
3~4	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	<ol style="list-style-type: none"> 母性看護の歴史的変遷と現状 <ol style="list-style-type: none"> 母性看護の変遷 母子保健統計の動向 母性看護に関する組織と法律 母子保健に関連する施策 母性看護の対象を取り巻く環境 				講義
5	母性看護の対象理解	<ol style="list-style-type: none"> 女性のライフスタイルにおける形態・機能の変化と家族 母性の発達・成熟・継承 				講義
6~7	母性看護に必要な技術	<ol style="list-style-type: none"> 情報収集・アセスメント技術 母性看護に使われる看護技術 				講義
8~10	女性のライフステージ各期における看護	<ol style="list-style-type: none"> ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 				講義・演習
11~14	リプロダクティブヘルスケア	<ol style="list-style-type: none"> 家族計画・性感染症とその予防・HIVに感染した女性に対する看護・人工妊娠中絶と看護 喫煙女性の健康と看護 性暴力を受けた女性に対する看護 児童虐待と看護 国際化社会と看護 				講義
15	試験 (90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1]母性看護学概論			森 恵美 他		医学書院
	国民衛生の動向			厚生統計協会		
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、グループワーク・レポート・出席状況などを総合的に評価する					

科目名	母性看護援助論 I		時期		時間	単位
担当教員	専任教員		2年次	後期	30時間	1単位
科目設定理由	妊娠期・分娩期における母性看護および女性生殖器疾患をもつ対象への看護の方法を学ぶことを目的に当該科目を設定した。					
学習目標	1 妊娠期・分娩期における母と胎児の健康維持・増進およびその家族に必要な看護を理解する 2 女性特有の健康障害の特徴と治療に応じた看護を理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1~3	妊娠期における看護	1 妊娠期における看護師の役割 2 妊娠期の身体的特性 (1) 妊娠とは (2) 妊娠の成立、胎盤の形成と胎児の発育 (3) 母体生理的变化 3 妊娠期の心理・社会的特性 (1) 妊婦の心理、妊婦と家族および社会 4 妊婦と胎児のアセスメント (1) 問診、外診、内診、臨床検査、日常生活に関するアセスメント 5 妊婦と家族の看護 (1) 母子保健サービス、保健相談、親になるための準備				講義・演習
4~5	妊娠の異常と看護	1 ハイリスク妊婦の看護				講義
	遺伝相談・不妊治療における看護	1 遺伝相談とは 2 出生前診断を受ける人への看護・遺伝カウンセリング 3 不妊治療における心理・社会的特徴 4 不妊夫婦の看護				講義
6~10	分娩期における看護	1 分娩期における看護師の役割 2 分娩の要素・分娩の経過 3 産婦と家族の看護 4 分娩期の看護の実際				講義・演習
11	分娩の異常と看護	1 異常のある産婦の看護 2 異常分娩時の産婦の看護 3 分娩時異常出血のある産婦の看護				講義
12~14	女性生殖器疾患患者の看護	1 外来・病棟における看護 2 診療介助における看護 3 症状とその病態に対する看護 4 疾患をもつ患者の看護 (1) 子宮筋腫 (2) 子宮内膜症 (3) 卵巣嚢腫 (4) 子宮体がん・子宮頸がん (5) 卵巣がん (6) 月経異常・更年期障害				講義
15	試験 (90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2]母性看護学各論			森 恵美 他		医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9]女性生殖器			末岡 浩 他		医学書院
参考図書・資料等	写真でわかる母性看護技術アドバンス			平澤 美恵子 他		インターメディア
評価方法	筆記試験・グループワーク・レポート・出席状況などを総合的に評価する					

科目名	母性看護援助論Ⅱ		時期		時間	単位
担当教員	専任教員		2年次	後期	30時間	1単位
科目設定理由	産褥期および新生児期における母と児への看護の方法を講義や演習を通して具体的に学び、看護実践能力を養う。また、看護における看護過程のプロセスについて、演習を通して理解することにより、母性看護の実践能力の向上を図ることを目的に当該科目を設定した。					
学習目標	1 産褥期および新生児期における母と児への看護方法を学ぶ 2 母性看護における看護過程のプロセスを理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1~4	産褥期における看護	1 産褥の経過 2 産褥のアセスメント 3 褥婦と家族の看護 4 施設退院後の看護				講義・演習
5	異常のある褥婦の看護	1 感染症をもっている褥婦の看護 2 乳房トラブル 3 健康上の問題のある褥婦および新生児の看護				講義
6~8	新生児期における看護	1 新生児の生理 2 新生児のアセスメント 3 新生児の看護				講義・演習
9	新生児の異常と看護	1 分娩外傷における看護 2 新生児仮死児の看護 3 高ビリルビン血症児の看護				講義
10~14	看護過程	1 ウェルネスの考えに基づく母性における看護過程 2 事例演習 (1) 褥婦・新生児の看護				講義・演習
15	試験 (90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1]母性看護学概論		森 恵美 他		医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2]母性看護学各論		森 恵美 他		医学書院	
	ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版		太田 操		医歯薬出版	
	写真でわかる母性看護技術アドバンス		平澤 美恵子 他		インターメディアカ	
参考図書・資料等	ウェルネスからみた母性看護過程		佐世 正勝 他		医学書院	
評価方法	筆記試験・グループワーク・レポート・出席状況などを総合的に評価する					

科目名	精神看護学概論		時期		時間	単位
担当教員	専任教員		2年次	前期	30時間	2単位
科目設定理由	今日の日本の精神医療は、かねてより入院治療から地域生活支援へ移行を目指すなどの取り組みが行われてきたが、ここ最近では、精神疾患が五大疾患として国民の健康に関する施策に盛り込まれたことや、精神障害を持つ人々への新しい支援の考え方である「リカバリ」に基づく新しい支援の方向性が報告されるなど、精神医療に関連する施策の変化や医療、看護を提供する際の方向性が大きく変化している。このように、精神の健康を支援する社会環境は、大きく変化を始めている。そこで、社会の変化の流れの変化に対応した、精神の健康を支援する看護師を養成することを目的として当該科目を設定した。					
学習目標	1 精神看護の対象と看護の場について理解し、精神看護の役割と機能を理解する 2 精神保健福祉に関わる法制度の変遷について理解する 3 精神保健の課題について理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1	精神保健・看護の概念	1 精神看護とは 2 精神保健とは 3 精神看護の目的・機能・役割				講義
2~3	精神保健	1 精神の健康とは 2 精神障害のとらえ方 3 回復（リカバリ） 4 ストレングスとレジリエンス 5 一次予防・二次予防・三次予防				講義
4~5	心のしくみとはたらき	1 精神とは 2 心の構造について 3 防衛機制				講義
6~7	精神保健医療の沿革・歴史	1 精神障害と治療の歴史 2 日本における精神医学・精神医療の流れ				講義
8	リエゾン精神看護	1 リエゾン精神看護とその活動 2 リエゾンナースの実際				講義
9	生活の場とクライシス	1 クライシスとは 2 家庭・学校・職場・地域における危機				講義
10~11	精神障害と法制度	1 精神保健福祉法と医療 (1) 入院形態 (2) 精神保健指定医 2 精神障害者の権利擁護 3 障害者総合支援法と人権 4 自殺対策基本法と人権・看護				講義
12~13	地域における精神保健と精神看護	1 生活を支えるための社会資源・サービス				講義
14	看護における感情労働	1 感情労働としての看護 2 看護師の感情ワーク				講義
15	試験（90分）	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1]精神看護の基礎			武井 麻子 他	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [2]精神看護の展開			武井 麻子 他	医学書院	
	精神看護学 精神保健 第4版			太田 保之 他	医歯薬出版	
	国民衛生の動向			厚生統計協会		
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、課題レポート					

科目名	精神看護援助論 I		時期		時間	単位
担当教員	看護師		2年次	後期	30時間	1単位
科目設定理由	今日の日本の精神医療は、かねてより入院治療から地域生活支援へ移行を目指すなどの取り組みが行われてきたが、ここ最近では、精神疾患が五大疾患として国民の健康に関する施策に盛り込まれたことや、精神障害を持つ人たちへの新しい支援の考え方である「リカバリ」に基づく新しい支援の方向性が報告されるなど、精神医療に関連する施策の変化や医療、看護を提供する際の方向性が大きく変化している。このように、精神の健康を支援する社会環境は、大きく変化を始めている。そこで、社会の変化の流れの変化に対応した、精神の健康を支援する看護師を養成することを目的として当該科目を設定した。					
学習目標	1 精神の健康障害や精神症状について、看護の基本となる考え方、技術を理解する 2 精神に障害のある人の特徴と看護援助を理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1~3	主要疾患別看護	1 統合失調症のある患者の看護 2 気分（感情）障害のある患者の看護 3 アルコール依存症のある患者の看護 4 家族への看護				講義
4~6	主要症状別看護	1 幻覚・妄想のある患者の看護 2 抑うつ、引きこもりのある患者の看護 3 拒絶、興奮状態にある患者の看護 4 自己破壊行動のある患者の看護 5 操作、依存状態にある患者の看護				講義
7~8	精神科の治療と身体 のケア	1 薬物療法とその副作用 2 電気けいれん療法（ECT）				講義
9~10	回復を支えるさまざ まなプログラム	1 作業療法、レクリエーション療法 2 社会生活技能訓練（SST） 3 認知行動療法（CBT）				講義・演習
11~12	地域における精神看 護	1 退院支援 2 精神科デイケア 3 精神科訪問看護、ACT（包括型地域生活支援プログラム） 4 セルフヘルプグループ 5 就労移行支援・就労継続支援A型・B型 6 グループホーム、援護寮、家族会など				講義
13~14	精神科における安全 管理と患者の権利擁 護	1 行動制限と看護 2 暴力・無断離院 3 アドボカシー				講義
15	試験（90分）	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1]精神看護の基礎			武井 麻子 他		医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [2]精神看護の展開			武井 麻子 他		医学書院
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験・グループワーク・レポート・出席状況などを総合的に評価する					

科目名	精神看護援助論Ⅱ		時期		時間	単位
担当教員	専任教員		2年次	後期	30時間	1単位
科目設定理由	今日の日本の精神医療は、かねてより入院治療から地域生活支援へ移行を目指すなどの取り組みが行われてきたが、ここ最近では、精神疾患が五大疾患として国民の健康に関する施策に盛り込まれたことや、精神障害を持つ人々たちへの新しい支援の考え方である「リカバリ」に基づく新しい支援の方向性が報告されるなど、精神医療に関連する施策の変化や医療、看護を提供する際の方向性が大きく変化している。このように、精神の健康を支援する社会環境は、大きく変化を始めている。そこで、社会の変化の流れの変化に対応した、精神の健康を支援する看護師を養成することを目的として当該科目を設定した。					
学習目標	1 精神の健康障害や精神症状について、看護の基本となる考え方、技術を理解する 2 精神に障害のある人の問題を解決するための方法を理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1~3	精神看護師の役割	1 精神看護の特徴と役割 2 患者-看護師関係 3 人間関係（自己洞察） （1）プロセスレコード				講義・演習
4~7	精神を病む人への看護援助の基本	1 日常生活援助 2 看護が活用する技法 （1）コミュニケーション （2）ロールプレイング （3）生活技能訓練（SST）				講義・演習
8~14	精神に障害のある対象の事例展開（事例）	【事例】 1 統合失調症の患者の看護 2 うつ状態にある患者の看護 3 事例に対し、臨地実習で使用する記録用紙を用いて看護過程を展開する （1）情報、分析・解釈 （2）アセスメント （3）統合アセスメント （4）看護計画 4 発表				演習
15	試験（90分）	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1]精神看護の基礎			武井 麻子 他		医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [2]精神看護の展開			武井 麻子 他		医学書院
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験・レポート					